



特集1

8月6・7・8日、いよいよ開催!

仙台七夕まつり

仙台藩祖伊達政宗公が奨励したとも言われ「七夕さん」と呼んで親しまれてきた仙台七夕まつり。商店街や子ども会などによって伝統が承継されていくなか、最近では仙台文化を理解するため東北大学の外国人留学生も飾りの作成に励んでいます。今号では、こうした取り組みや、周辺部商店街の七夕への思いを通して見えてくる七夕まつりの魅力を探りながら、今年の見どころをご紹介します。



外国人留学生が取り組む仙台七夕

仙台七夕まつりを体感して、
仙台・宮城の魅力を発信します

国立大学法人東北大学
高度教養教育・学生支援機構
グローバルラーニングセンター

特任准教授 坂本 友香さん

東北大学では、2013年から外国人留学生と国内学生が英語で共に学ぶ、「宮城の伝統文化を通じた日本理解」という授業を行っています。仙台七夕まつりを取り入れたのは2年前からです。歴史的な背景を学ぶのはもちろんですが、実際に祭りに参加することで、より地域とのつながりを持つてほしいという願いも込めて、七夕飾りの作成を始めました。現在、この授業を履修する学生は28人(国内学生6人)。単に作るだけでなく、デザインも学生が考えており、今年は「四季」をテーマに取り組んでいます。



たくさんの花を手分けして作成。仙台での生活や七夕まつりへの思いを語り合い、おしゃべりにも花が咲きます。

学生には、きれいな飾りを見るだけではなく、作った人の思いや願いとともに飾られていることも感じ、知ってもらいたいですね。今後は、商店街や子ども会の方々と一緒に作成する機会や、七夕への思いを伺うこと

ができれば、この授業がもっと充実するのではないかと思っています。飾りは七夕期間中、藤崎前に飾らせていただきますので、ぜひ学生たちの力作をご覧ください。

【今年の七夕飾りをデザインした学生3人に聞きました】

川越 華佳さん

【医学部1年 横浜市出身】

手の込んだ飾りを、まちをあげて作って飾り、皆で楽しむという仙台七夕の風習に魅力を感じます。飾りには、国の垣根を越えた友達とひとつの飾りを作ること、日本と世界のつながりを大事にしていきたいという願いを込めました。デザインにもこだわり、吹き流しは下を人が通るのを前提に作っています。ぜひ、手作りの飾りの美しさと楽しさを体感してください。

クアン・ウェイ・リンさん

【交換留学生】シンガポール国立大学3年 シンガポール出身

実際に七夕飾りを見て、その「大きさ」にもとても驚きました。作成は大変ですが、私は手仕事が好きなので、とても楽しかったです。飾りのテーマを「四季」にしたのは、桜を見て感動し、私の国にはない「四季」を特別なことだと感じたから。仙台の皆さんにも私たちが心を込めて作った飾りを見て、日本の「四季」の魅力を再認識してもらえたらうれしいです。

アンナ・エリクソンさん

【交換留学生】ウプサラ大学4年 スウェーデン出身

ひとつの七夕に、いろいろな種類の飾りをつけることに珍しさを感じました。日本文化のひとつである仙台七夕まつりに携わることができ、うれしく思います。仙台は「杜の都」と表現されますが、木の葉や山肌の色合いに仙台ならではの美しさを発見しています。「四季」をテーマにした私たちの飾りを見て、自然に対して感謝の気持ちを抱いてもらえたらいいですね。



地域の商店街が取り組む仙台七夕①

手づくりの飾りを囲んで、 会話も楽しめる七夕まつりに

仙台朝市商店街振興組合

理事長 入間田博さん

私たちが仙台七夕の期間中に飾りを掲出するようにしたのは、今から15年ほど前です。地域に密着した活動を行おうという思いと、七夕まつりに参加することで、仙台朝市のPRにつなげて、お客さまをたくさん呼び込もうという狙いがありました。

私たちの飾りは各店の手作りなので、それぞれの個性が表現され、しかも温かさが伝わる点が良いところではないかと思っています。中には、商品の陳列用カゴやプラスチックのケース、牛乳パックを再利用したものがあつたり、作るのが苦手だからと、常連さんに頼んで、鶴を折ってもらった人がいたり（笑）。折りが90歳を過ぎた方で、そのお顔写真を店先に飾ったら、「この人が折ったの？」とお客さまとの楽しい会話が生まれました。なんてこともありました。作り手の顔が見えて、お客さまから直接、感想が聞けるのも、朝市ならではのことでと思います。また毎年、仕掛け物をつくってくれる「ミスター七夕」のような社長がいるのも頼もしい限りです。

仙台朝市の良いところは、対面販売でお客さまとお話をしながら商売ができる点にあります。例えば、今晚のおかずにお悩んだ時に相談に



今年は、朝市商店街「70周年」を記念し、飾りには統一札も付けられる。

乗ったりすることは日常茶飯事です。今後は料理教室を開いたりしながら、朝市全体で食の大切さを発信していくような取り組みをしていきたいと考えています。そのためにも、一人でも多くの方に仙台朝市の存在を知っていただきたいです。国内外の観光客の方々にも、仙台朝市に行ったら手づくりの七夕飾りが見られて、地元の新鮮で美味しい食材が手に入るということを知っていただきたいと思っています。七夕まつり期間中は、無料でスイカを振るまつたり、お子さんには水ヨーヨーのプレゼントを用意していますので、ぜひご家族で仙台朝市に足を運んでください。



地域の商店街が取り組む仙台七夕②

自分たちが楽しんでいることが、 来た方に伝わるような3日間に

原町東部商工会

会長 橋本秀一さん

当商工会では、藩政時代から変わっていない原町の本通りに商店会の会員をはじめ、小学校の子ども会や児童館、市民センター、文化センター、老人福祉施設などが一緒になって、仙台七夕の飾り作りに取り組んでいます。この本通りに竹飾りを並べますと、竹がしなつて七夕のトンネルのように見えるのが私たちの小さな自慢です。

実は、商店会の会員数は減少傾向にあります。それでも今年はマンションに飾りたいという住民の方々がいらしたり、原町を盛りあげたいと、このまちで暮らす東北大学の学生さんたちが、七夕飾りを掲出したいと申し出てくれました。うれしい限りです。そんな私たちが目指しているのは、仙台七夕に参加し続けることです。そう思うようになったのは、私が仙台商工会議所青年部の前身にあたる組織に在籍していたころ、メンバーの一人から出た「自分たち周辺部商店街ががんばらないと、中心部が盛り上がるらないだ」という言葉がきっかけで、私もその通りだと思ったのです。仙台七夕まつりは、全市をあげて開催するお祭りであり、私たちの誇りです。

祭りの初日は、子どもたちも参加してにぎや



商店会内の審査で金賞を受賞した八善堂さんの飾り。

かに笹竹を通りに立てるのが毎年の光景です。また、6日の夜には町内のカッコウ公園にスクリーンを立て、16ミリフィルムの「天の川映画会」を行っています。日本の昔話などのアニメーションを流すのですが、小さな子どもたちがカタカタと鳴る映写機の音や、その前を通った自分の姿がスクリーンに映るのがおもしろいようで、喜んでくれますから、やめられませぬ（笑）。こんな昔ながらののんびりした風景を楽しめる周辺部商店街の七夕飾りを、ぜひたくさんの方々に見ていただきたいですね。そのためには、まず自分たちが楽しんで、それが来てくださった方々に伝われば良いと思っています。



周辺部商店街七夕NEWS

七夕まつりのあるべき姿とは何か 商店会サミット開催！

8つの周辺部商店街（なかやま、宮町、八幡町、連坊、河原町、南光台、上杉、根白石）が集まり、「仙台七夕まつりを考える商店会サミット」が6月2日に開催されました。

今後の仙台七夕のあり方を検討する本サミット。「家族で手作りした七夕を飾って、仙台七夕の由来を親子で学ぶ習慣が必要。単なる観光七夕だけにしたいけない」と、伝統行事としての価値を見直し、七夕の原点を再認識することの重要性が参加者間で共有されました。



七夕製作を通じて外国人居住者とのコミュニケーションに活用した事例等が発表された。

3つの商店街で「仕掛け物」！ 東北一の歓楽街にも七夕飾りが！

舞台や人形を作って手で動かす、仙台七夕名物の「仕掛け物」。今年は仙台朝市のほか、新たに原町本通と八幡町にもお目見えします。どんな内容かは当日までの秘密。ぜひ足を運んで、各地の趣向を凝らした仕掛け物をお楽しみください。

そして、東北一の歓楽街「国分町」にも、約26本の七夕飾りが新たに登場！ネオンライトに照らされる、ひと味違った七夕飾りを楽しむのもいかがでしょうか。



昨年の仙台朝市商店街のテーマはガールズプロレスリングの「仙女」。毎年変わる内容も楽しみの一つだ。

周辺部商店街 七夕マップ



